

NEW OLD KAMAKURA

～伝統を守るため、革新に挑む～

令和4年（2022年）3月22日（火）
鎌倉市共生共創部政策創造課
担当課長 天城 秀文

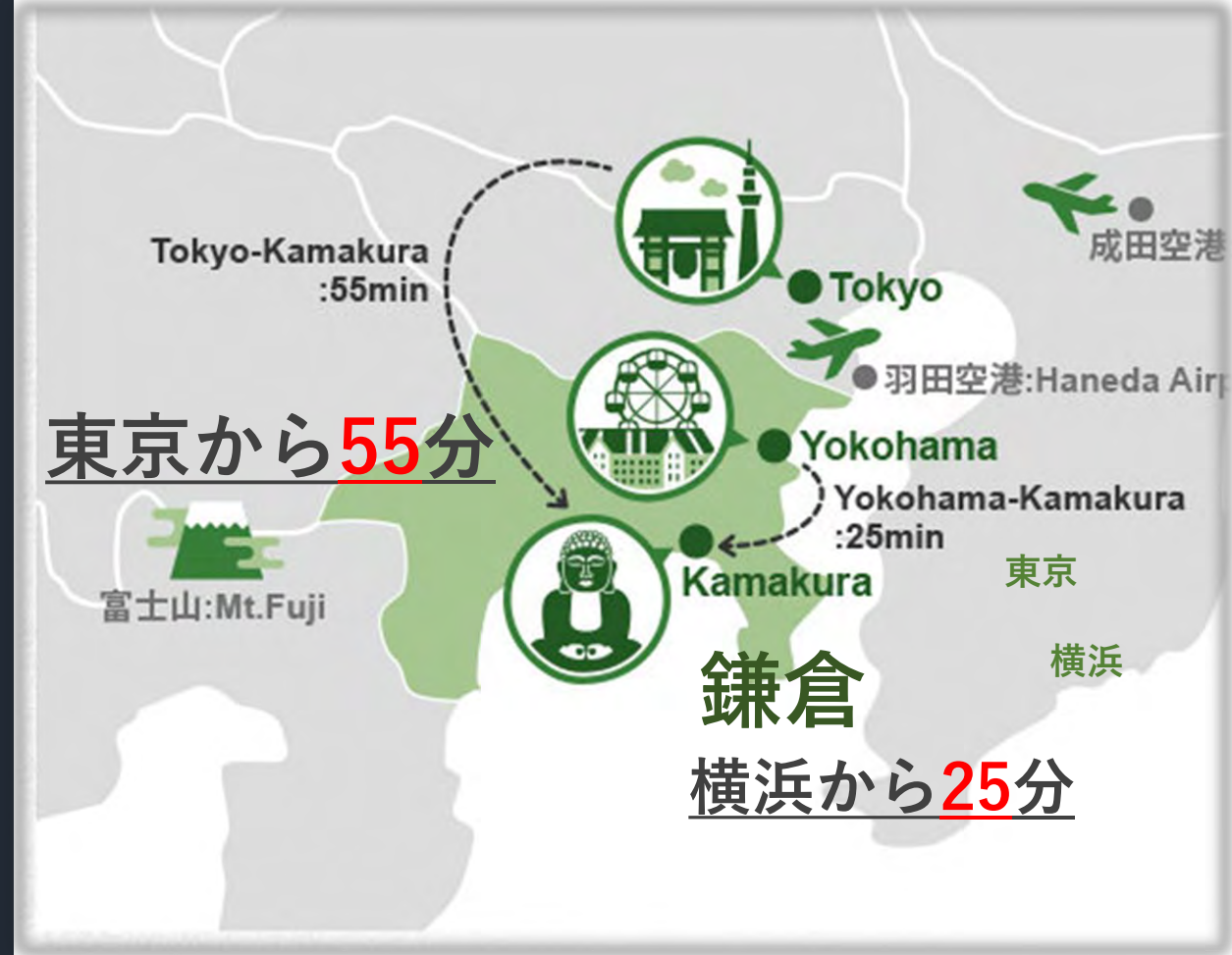
【自己紹介】

2021年4月～ 鎌倉市共生共創部政策創造課担当課長
(所掌事務) スマートシティ・スーパーシティの企画・調整・推進

主な配属先

- ・ 2008年4月～ 知事室調査課
- ・ 2011年3月～ 災害支援担当部支援担当
(東日本大震災の被災地・被災者支援の特命チーム)
- ・ 2012年4月～ 安全防災局総務室
- ・ 2014年4月～ ヘルスケア・ニューフロンティ推進局
- ・ 2018年4月～ 政策局未来創生課
- ・ 2019年9月～ 政策局SDGs推進課

革新 × 伝統



面積：3,967ha
人口：172,321人



革 伝 新 統

X

年間約2,000万人の観光客が訪れるまち

革新 × 伝統

「禅はイノベーションだった」

鎌倉は、日本で最初に本格的な禅をとり入れ地であった

禅の導入は、非常に革新的な取り組みだった

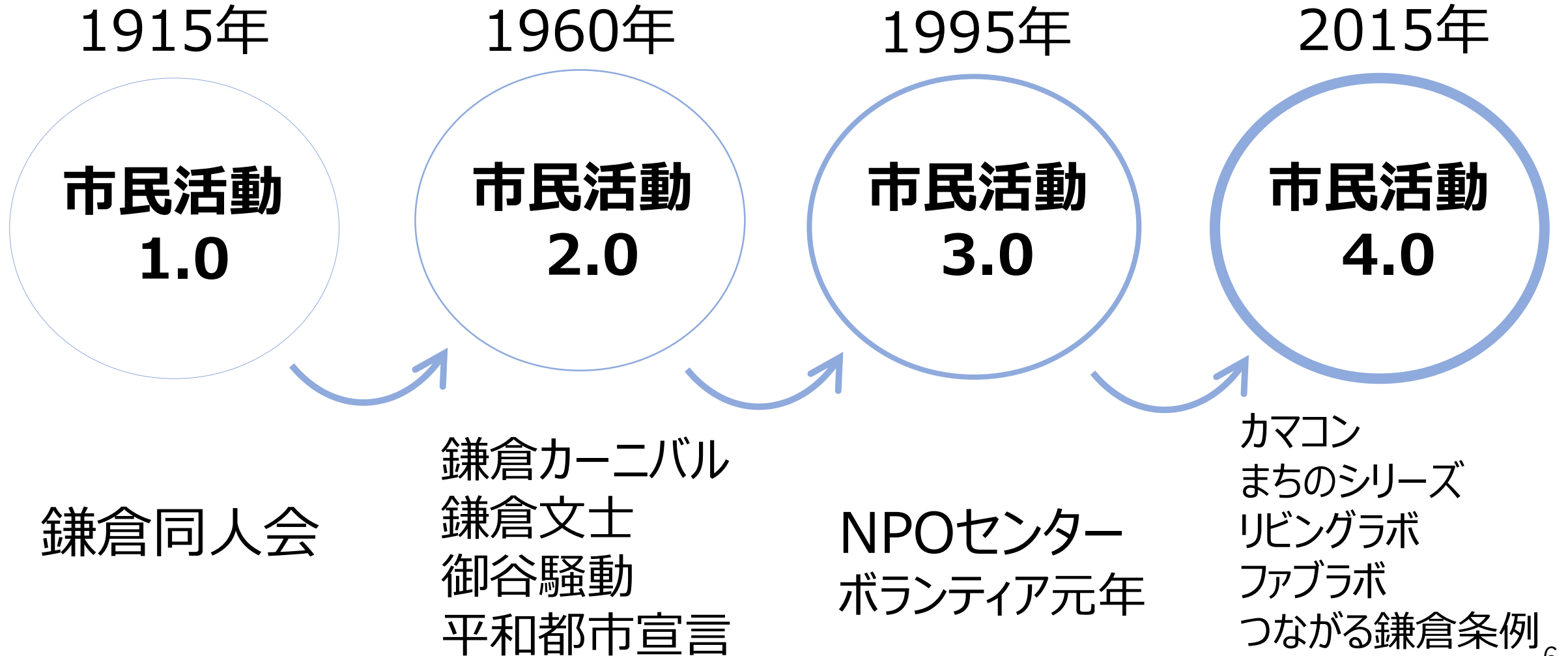
その革新的な取り組みは、時代に合った「革新を連続」させることで

伝統が続き、海外へと広がっています

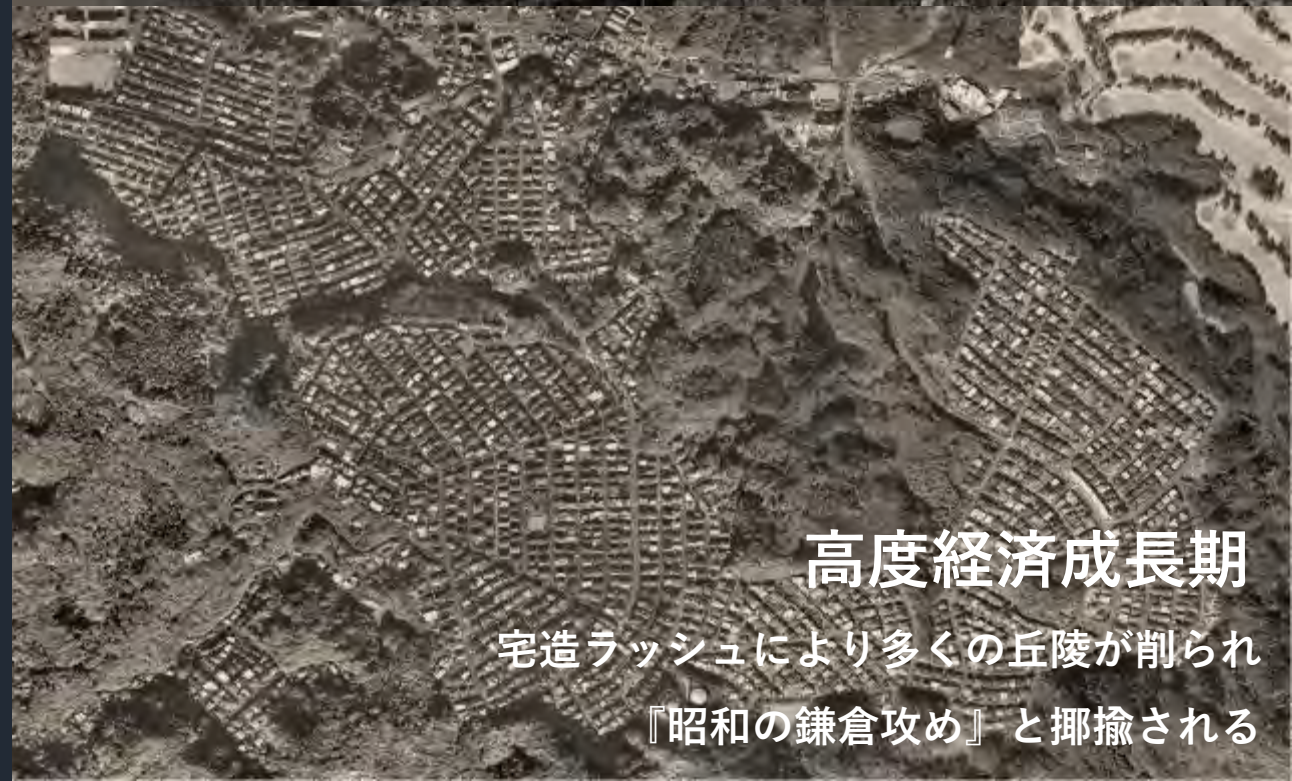
歴史、伝統を守るため、革新を起こしつづける

これからのまちを共に創りましょう

鎌倉の市民活動の変遷



革新 × 伝統



高度経済成長期
宅造ラッシュにより多くの丘陵が削られ
『昭和の鎌倉攻め』と揶揄される

時代とともに市役所も進化



革新 × 伝統

地形とともに歴史・文化を大切にしながら
高い市民力・地域力を背景に新しいまちを築いてきた



革新 × 伝統

地形とともに歴史・文化を大切にしながら
高い市民力・地域力を背景に新しいまちを築いてきた



鎌倉市スマートシティ構想

令和4年(2022年)3月 鎌倉市

鎌倉市スマートシティ構想 目次

- 1 構想の概要
- 2 鎌倉市を取り巻く環境の変化
- 3 基本理念・基本原則
- 4 推進体制
- 5 リーディングプロジェクト
- 6 スマートシティ連携事業
- 7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化

構想の概要

背景・目的

- 昨今の技術革新をめぐる世界的な潮流を背景に、日本でも「第4次産業革命*の技術革新を、あらゆる産業や社会生活に取り入れることにより、様々な社会課題を解決するSociety 5.0 *を世界に先駆けて実現する」という方向性が、政府から示されています。
- 国内では、先端技術やデータを活用し、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、人口減少・少子高齢化等の各種社会課題を克服して市民生活に快適性や利便性などの新たな価値を創出するまちづくり、「スマートシティ*」の構築が求められています。

SDGs*に示される社会課題



※鎌倉市は2018年に国のSDGs未来都市に選定

人にやさしいテクノロジー*

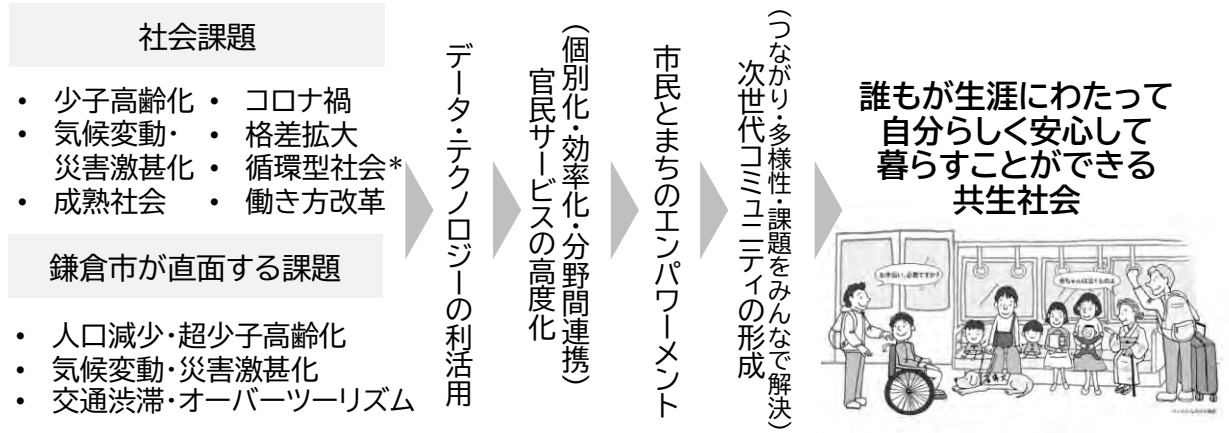


鎌倉市スマートシティの背景

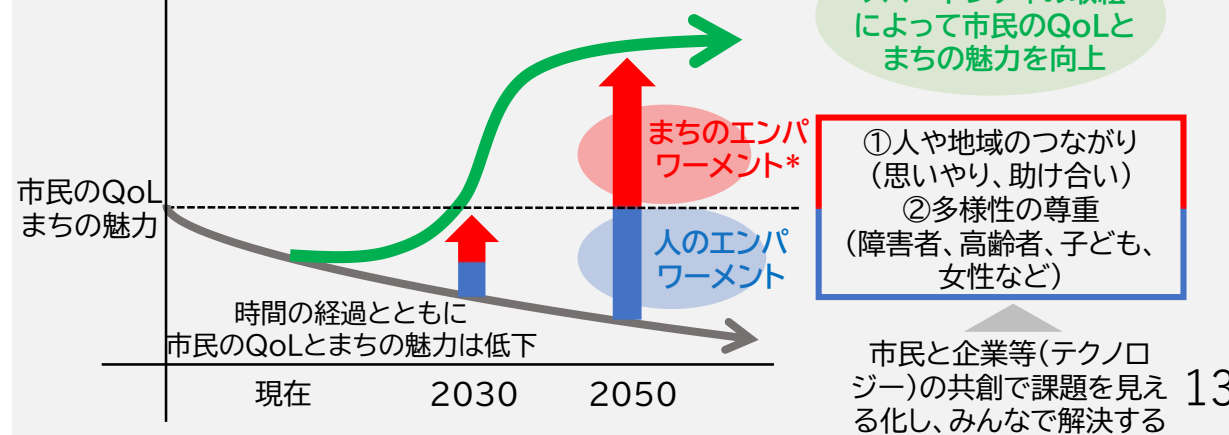
- 鎌倉市は、先人から連綿と受け継いできた歴史や文化、そして豊かな自然環境に恵まれた都市です。一方で、超少子高齢化*をはじめ、災害への脆弱性、オーバーツーリズム*や慢性的な交通渋滞といった課題が山積しています。
- これらの課題解決や、今後直面することになる様々な課題に対応できる仕組みや体制を構築するとともに、地域が自律的に成長する力を育て、市民のQoL*とまちの魅力向上を図るため、2020年4月に産官学民の共創によるスマートシティの取組に着手しました。

将来像

- 鎌倉のまち並みや、歴史・文化を大切にしながら、AI* やIoT*、ビッグデータ*など、人にやさしいテクノロジーを活用することによる市民参加型のスマートシティを目指し、誰もが生涯にわたって自分らしく安心して暮らすことができる共生社会*を築きます。



官民連携の総力戦で課題解決に取り組む好循環モデルを創出



鎌倉市を取り巻く環境の変化:特有の課題

超少子高齢化

- ✓ 今後、急速な人口減少や少子高齢化、そして生産年齢人口の減少傾向が続く
- ✓ 高度経済成長期に大量に造成された丘陵住宅地(人口密集地)が大規模なものだけでも6箇所存在し、都市型の超少子高齢化が市民生活の質の低下を招き、本市のあらゆる課題のベースとして影響を及ぼす
- ✓ 右肩上がりの高度経済成長期を前提にした現在の社会システムでは、この先の時代を乗り切ることができない
- ✓ 共生社会を実現するためには子ども、障害者、高齢者等のいわゆる社会的弱者の「安全・安心」「健康」などを守ることがこれまで以上に求められる



※令和元年台風15号 倒木の現場写真



※浸水被害のイメージ画(鎌倉市津波シミュレーション動画)

気候変動と災害激甚化

- ✓ 三方を山に、一方が海に開けた豊かな自然景観に加え、多くの社寺をはじめとした文化的・歴史的遺産が特徴
- ✓ 近年、台風等の自然災害の激甚化により、鎌倉の地理的な脆さを再認識
- ✓ 令和元年の台風15号では、多数の倒木、がけ崩れのほか、大規模な停電や貴重な文化財の毀損等が発生

観光・交通の適正化

- ✓ 年間2,000万人近い観光客*が来訪することにより、深刻な交通渋滞や緊急車両の到着遅延などが発生し、市民生活に不利益や不便、不安を与えている
- ✓ 外国人を含む多様な人の滞在により、ごみの減量や災害時対応など、様々な場面で観光客との共生が課題となっている
- ✓ さらに、ウィズ/アフターコロナ*を見据え、観光客と市民双方の安全・安心の確保がこれまで以上に求められる



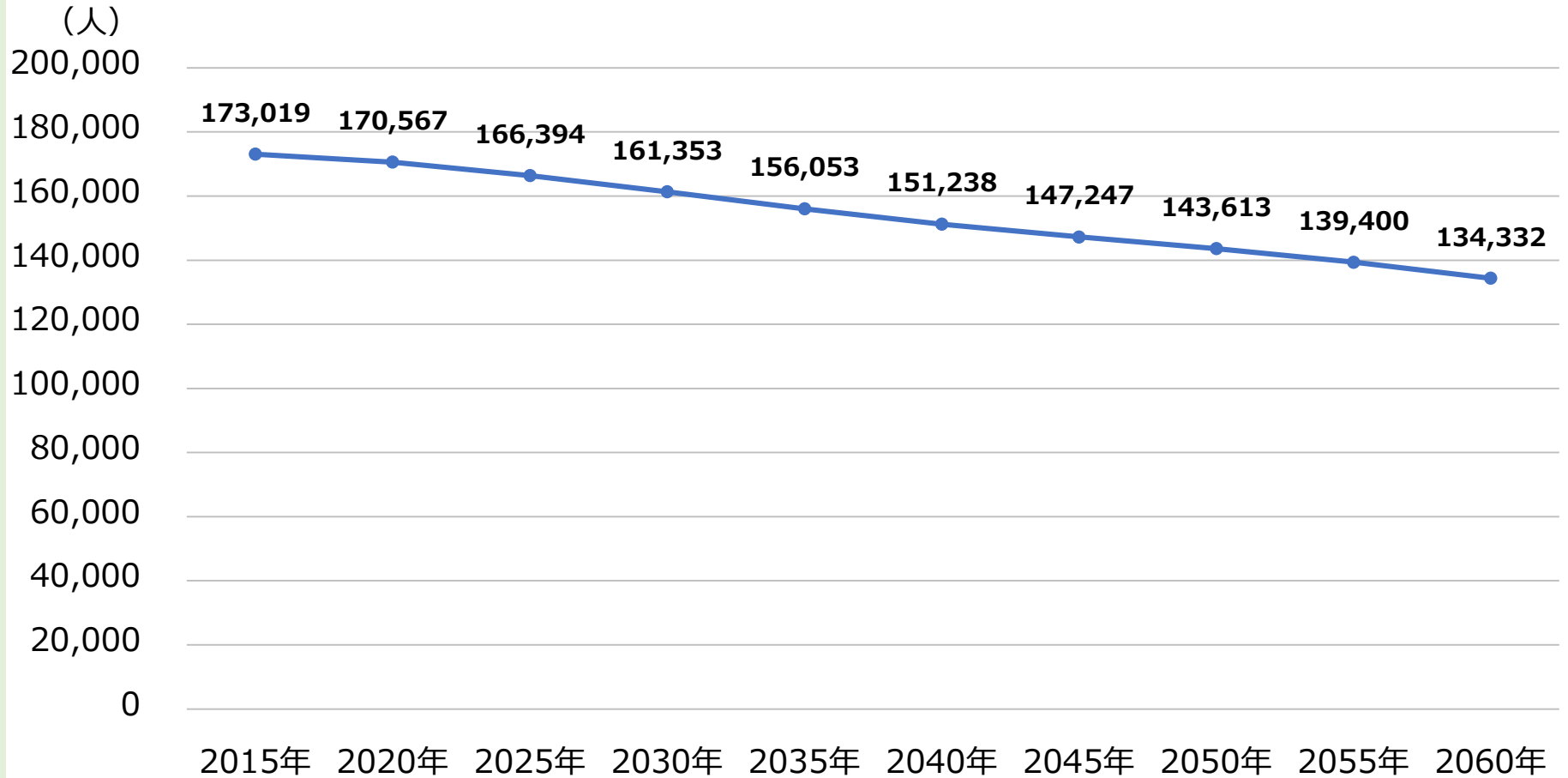
総人口の基本推計

総人口の基本推計

平成27年(2015年)に約17万3千人であった総人口が、令和42年(2060年)に約13万4千人となり、約3万人の人口減少が見込まれます。

※基本推計とは
本市を取り巻く社会環境に大きな変化がなく、現在の動向のまま人口が推移したときに見込まれる推計のこと。

※基本推計の算出条件
平成27年(2015年)国勢調査を基準とし、自然増減や社会移動については、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018年)推計)」の値を設定したもの

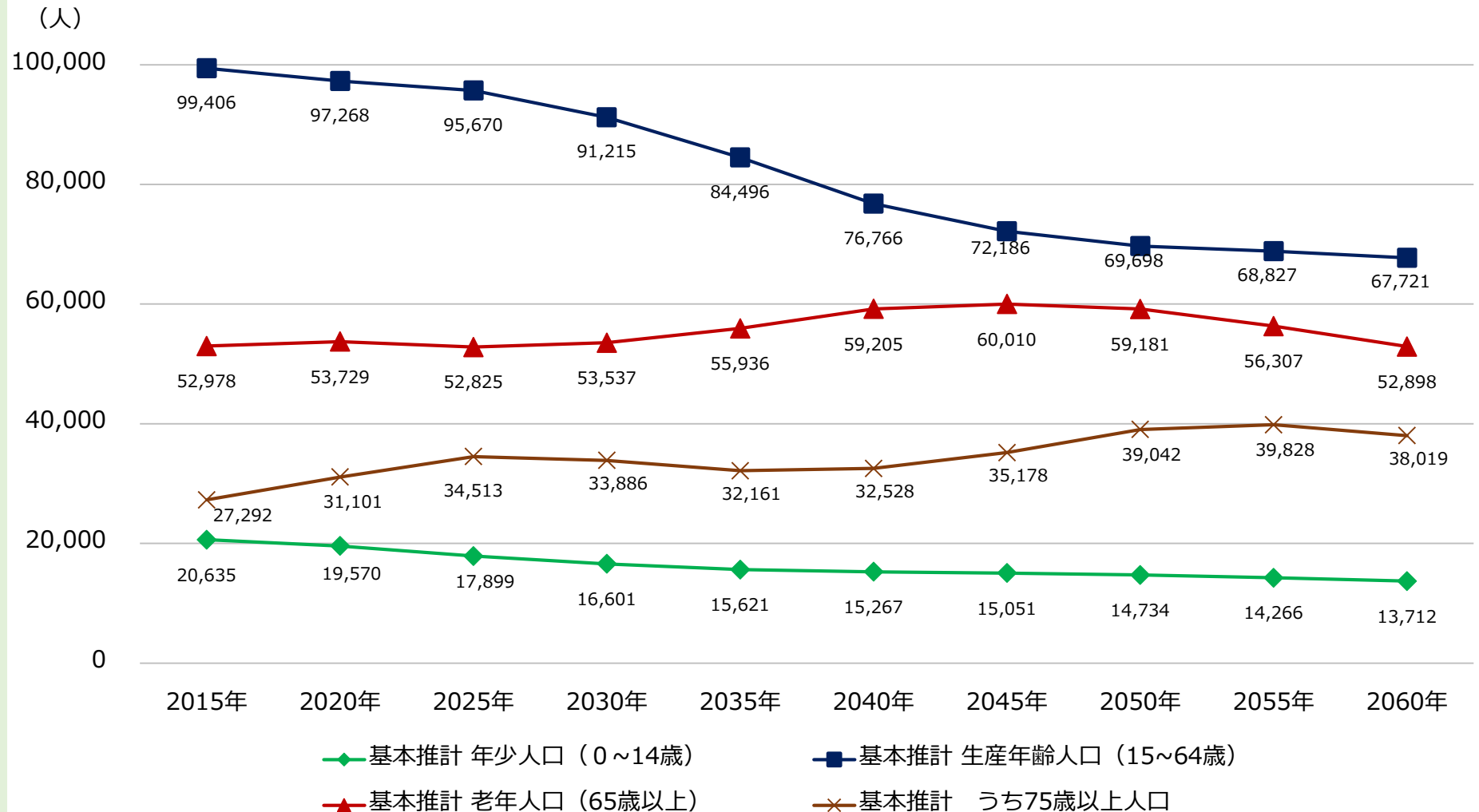


統計資料(年齢区分別の基本推計)

年齢区分別の 基本推計

平成27年(2015年)に比べ、令和42年(2060年)には、年少人口(0~14歳)が、6,923人、生産年齢人口(15~64歳)が31,685人減少します。

老年人口(65歳以上)は、令和27年(2045年)に7,032人増加し、その後減少に転じますが、75歳以上の後期高齢者人口は、令和42年(2060年)に10,727人増加します。

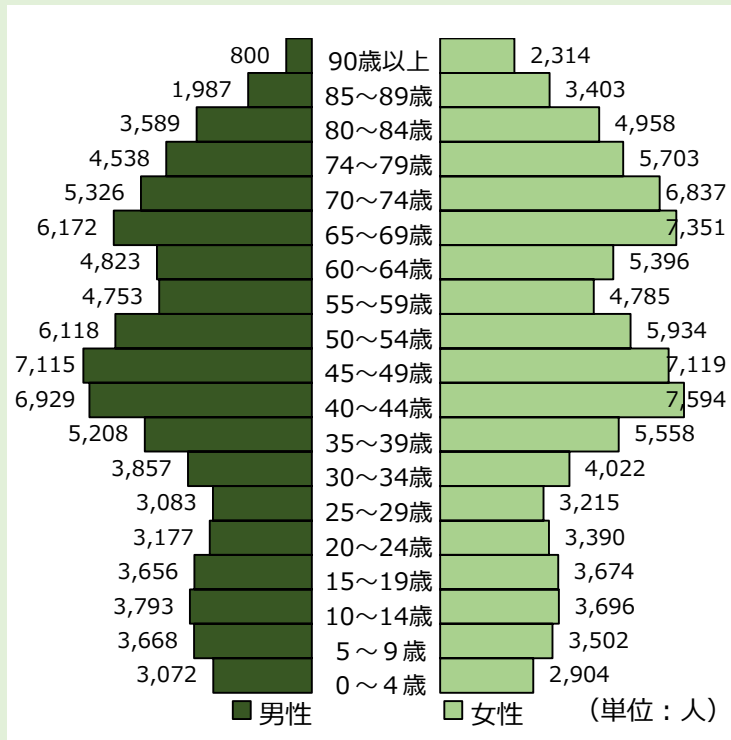


統計資料(性別・年齢5歳階級別人口ピラミッドの変化(基本推計))

性別・年齢5歳階級別人口ピラミッドの変化(基本推計)

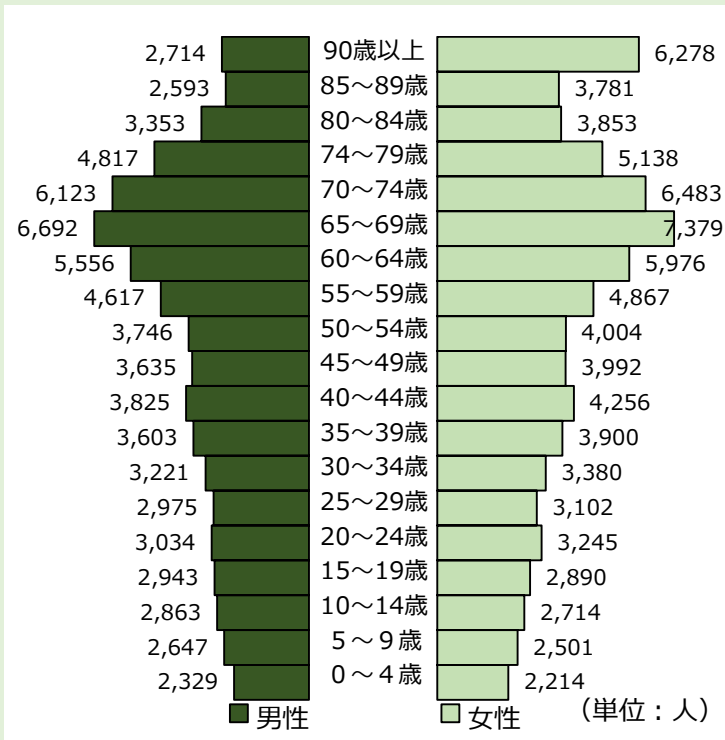
高齢化が進行し、「釣鐘型」から「つぼ型」に変化することが見込まれます。特に高齢女性の人口の増加が顕著にみられます。老年人口(65歳以上)ならびに75歳以上人口の高齢者は増加し、本市では今後40年間の少子高齢化の進行が見込まれます。

《平成27年(2015年)》



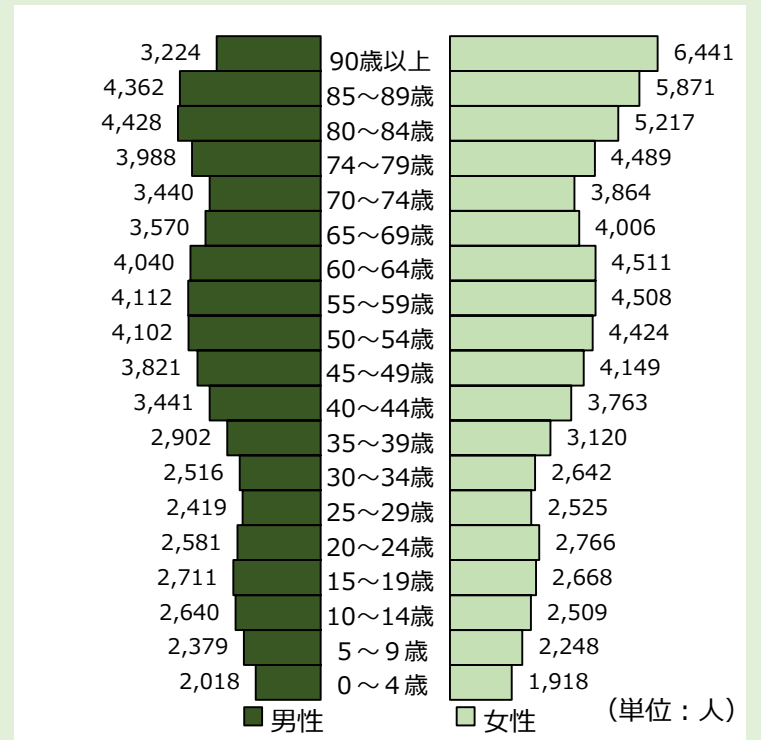
男性81,664人 女性91,355人

《令和22年(2040年)》



男性71,287人 女性79,951人

《令和42年(2060年)》

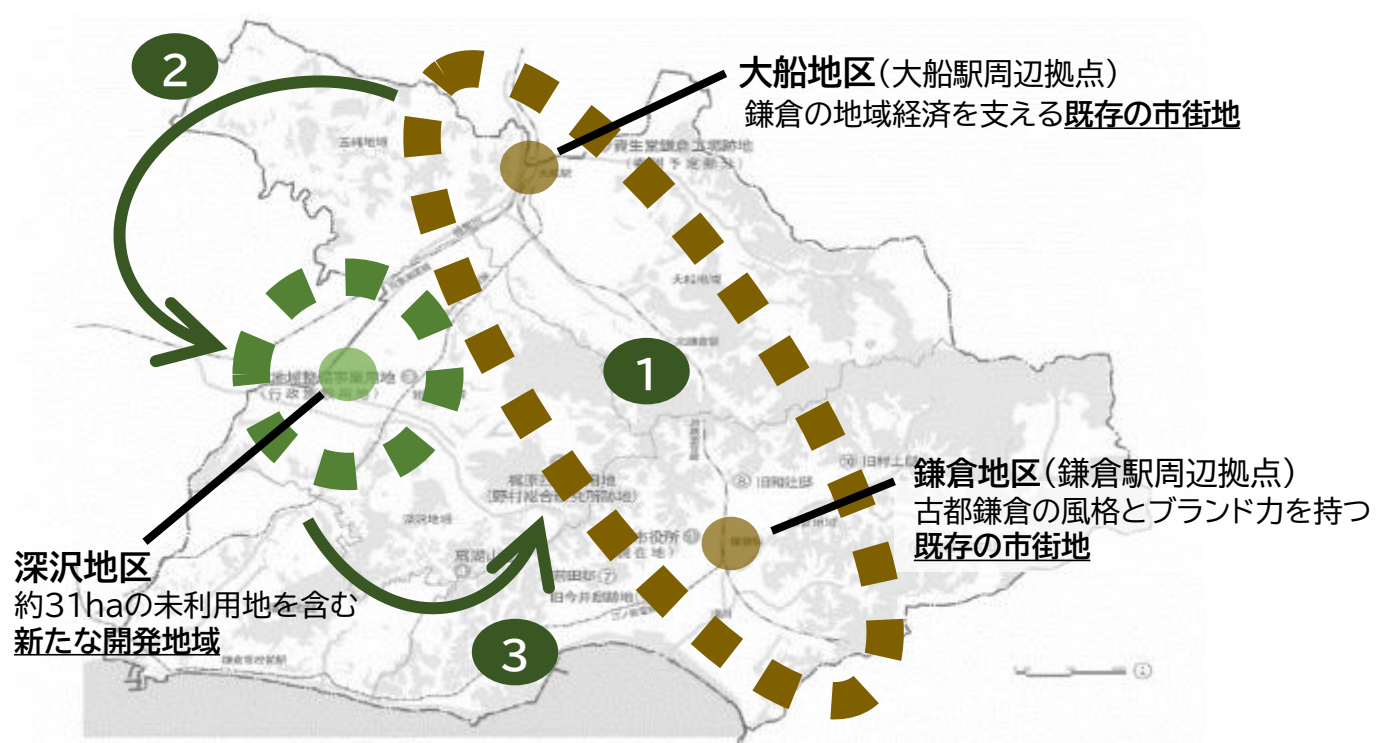
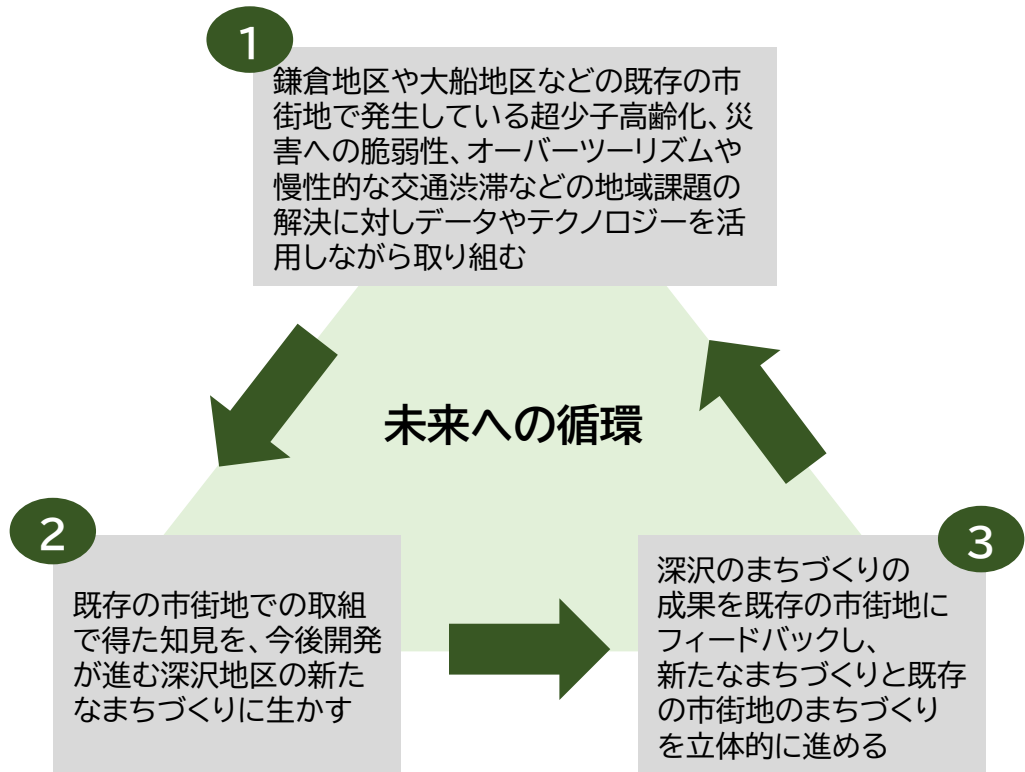


男性62,692人 女性71,639人

構想の概要

対象区域

対象区域は「市全域」とし、既存の市街地やこれから新たなまちづくりが進む場所など、地域特性を活かし、互いに影響し合うような展開を目指します。



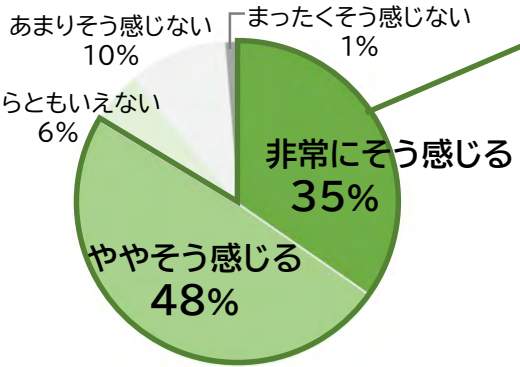
鎌倉市を取り巻く環境の変化: 社会変化

新しい生活様式・ウィズ/アフターコロナ

強い感染力を持ち重篤な症状をもたらす COVID-19* が世界的に大流行

鎌倉市民の意識や生活様式が変化

ライフスタイルの変化

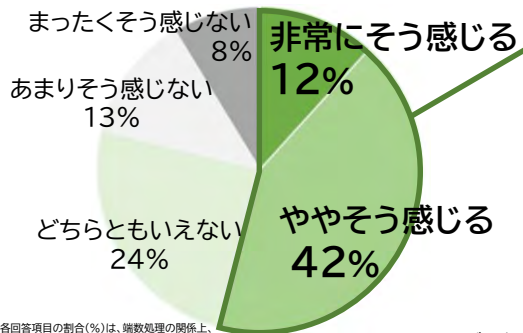


ライフスタイルの変化を実感した **83%**

| 困りごと・不安に思うこと | 回答 |
|---------------|-----|
| 外出時の感染リスク | 78% |
| 外出時の制限 | 70% |
| 交流機会の減少 | 65% |
| 文化芸術にふれる機会の減少 | 46% |
| 運動・スポーツの機会の減少 | 45% |
| 健康悪化(身体・精神) | 28% |

複数選択可

ICTツールへの自身の関心の高まり



ICTツールへの関心が高まった **54%**

| 新たに活用したICTツール | 回答 |
|---------------|-----|
| ビデオ通話 | 42% |
| 接触確認アプリcocoa | 19% |
| 店頭キャッシュレス支払 | 19% |
| スマホやタブレット | 18% |
| ネットショッピング | 16% |

複数選択可

データ出典: 鎌倉市「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」

各回答項目の割合(%)は、集計処理の関係上、合計が100%にならない場合があります。

意識の変化やICTツール*への関心の高まり → ICTを活用した新しい生活様式が定着

政府・自治体のデジタル・トランスフォーメーション

デジタル社会*の実現に向けた改革の基本方針 (2020年12月)

デジタル社会の目指すビジョン

誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化

デジタル社会を形成するための基本原則

- ①オープン・透明
- ②公平・倫理
- ③安全・安心
- ④継続・安定・強靱
- ⑤社会課題の解決
- ⑥迅速・柔軟
- ⑦包摂・多様性
- ⑧浸透
- ⑨新たな価値の創造
- ⑩飛躍・国際貢献

デジタル社会形成基本法 (2021年5月公布)

デジタル社会形成の基本理念、デジタル庁*の設置等について定める

基本理念

- ・ゆとりと豊かさを実感できる国民生活の実現
- ・国民が安全で安心して暮らせる社会の実現
- ・利用の機会等の格差の是正
- ・個人及び法人の権利利益の保護等

自治体デジタル・トランスフォーメーション*(DX)推進計画 (2020年12月)

情報システムの標準化・共通化について自治体が重点的に取り組む内容を具体化

【重点取組事項】

- ・自治体の情報システムの標準化・共通化
- ・マイナンバーカードの普及促進
- ・自治体の行政手続きのオンライン化
- ・自治体のAI・RPA*の利用推進
- ・テレワーク*推進
- ・セキュリティ対策の徹底

【自治体DXとあわせて取り組む事項】

- ・地域社会のデジタル化
- ・デジタルデバイド*対策

【その他取組事項】

- ・BPR*の取組の徹底
- ・オープンデータ*の推進
- ・官民データ利活用推進計画の推進

基本理念・基本原則

誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる共生社会の実現を目指し
次の理念と原則に従い、データやテクノロジーを活用した人にやさしいスマートシティの取組を推進します

基本理念

1

“市民起点“

市民ニーズや課題を起点に、人にやさしいデータやテクノロジーを課題解決の一つの手段として活用し、市民の生活の質の向上を目指す

2

“共生の精神“

市民力・地域力を活かし、自然をはじめまちに関わる全ての要素をつなげ、地域課題を解決し、まちの魅力を高める

3

“鎌倉らしさの継承“

古いものを大切にしながら、積極的に新しいものを取り入れ、新たな価値を築く

基本原則

1

公平性・包摂性 社会的影響

▼誰一人取り残さない共生社会を実現するために、デジタルデバイドの解消に取組み、希望する全ての市民*が等しく人にやさしいデータやテクノロジーに支えられたサービスを楽しむことができるように努めます。
▼鎌倉の文化や歴史を踏まえたWell-Being*を可視化し、定量的な評価を基に取組を継続的に進化させます。

2

プライバシー 保護・透明性

▼個人情報*保護の関連法令を遵守し、透明性の高いルールと手続きに従い、本人同意に基づいてのみ個人情報を取得、提供(オプトイン*)するなど、プライバシーの確保を徹底します。

3

相互運用性 ・オープン性

▼地域やシステム、分野の壁を越えたデータやサービスの連携により相互運用性を確保し、サービスの全体最適化と新たな価値の創出を図ります。

4

安全・安心 ・強靱性

▼激甚化する災害やCOVID-19等の感染症など予測困難な事態に直面した場合でも、最低限の都市機能や社会経済システムの継続性を維持しながら、早期に復旧できるレジリエント*な体制を確保します。

5

持続可能性

▼新たなサービスやソリューション*、事業の立ち上げにあたっては、社会実装を見据え受益者を意識した事業設計を行うことで、運用面・財政面の両側面から持続可能性を確保します。
▼生活様式の変化などをとらえ、地域に根差した新たなコミュニティ形成を進め、市民活動の活性化と持続可能なまちづくりを進めます。

6

対話・共創 ・主体性

▼市民を中心に、産官学民のマルチステークホルダー*による主体的かつ能動的な対話と丁寧な合意形成を重視した取組を進めます。
▼合意形成にあたっては、データやテクノロジーの利活用に伴い発生するおそれのあるリスクや倫理的課題の明確化を徹底し、市民の理解と信頼に基づく運用に努めます。

共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査

◇調査概要◇

- 1 調査地域 鎌倉市全域
- 2 調査対象 満18歳以上の市民(令和3年(2021年)3月1日時点)
- 3 調査対象数 4,000人(各 2,000人のAグループ/Bグループ)
- 4 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 5 調査時期 令和3年(2021年)4月～5月
- 6 調査方法 調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答
 - ・満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答
(ただし、郵送回答希望者には別途調査票を送付)
 - ・満 65 歳以上は郵送配布・郵送回答

7 回答率向上施策

A グループのみ、回答率を向上させる複数の方法を用いました

- ① 事前協力依頼 調査対象者に、回答依頼の6日前に、調査対象者になった旨を通知し、協力を依頼。
- ② 督促 調査締切後、未回答の対象者に改めて協力を要請するとともに、締切を延長。
- ③ 謝礼 締切までに回答を頂いた全回答者に、クオカード300円分を贈呈。さらに、早期回答者(発送後9日以内)へは200円分を追加し、全体の回答率目標(70%)を達成した場合には、全回答者にさらに200円分を追加。

8 調査主体 鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ

※世論・住民意識調査ソリューションの共同研究に関する協定書に基づく共同研究

「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」結果確報

令和3年(2021年)12月3日
鎌倉市
株式会社ドリームインキュベータ



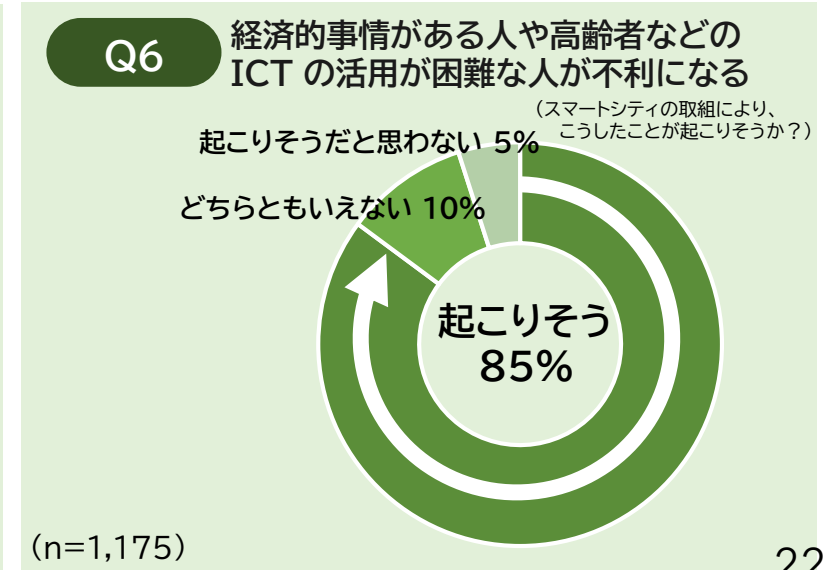
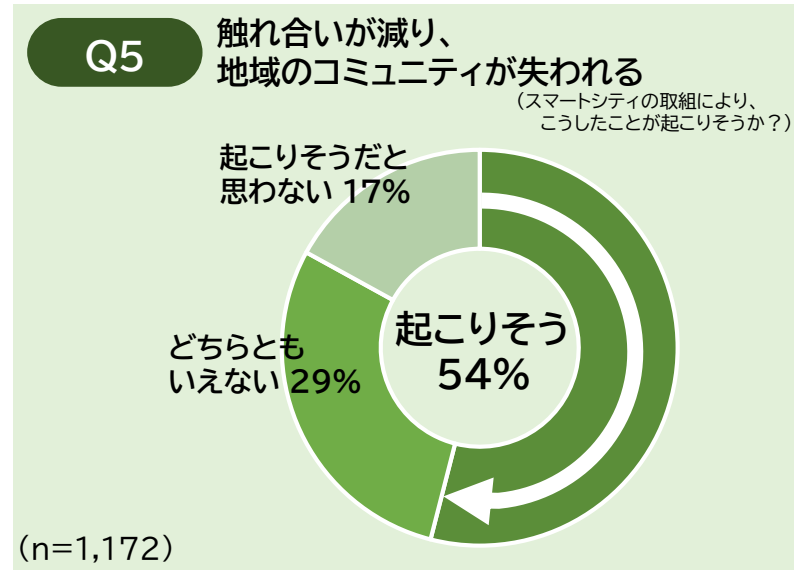
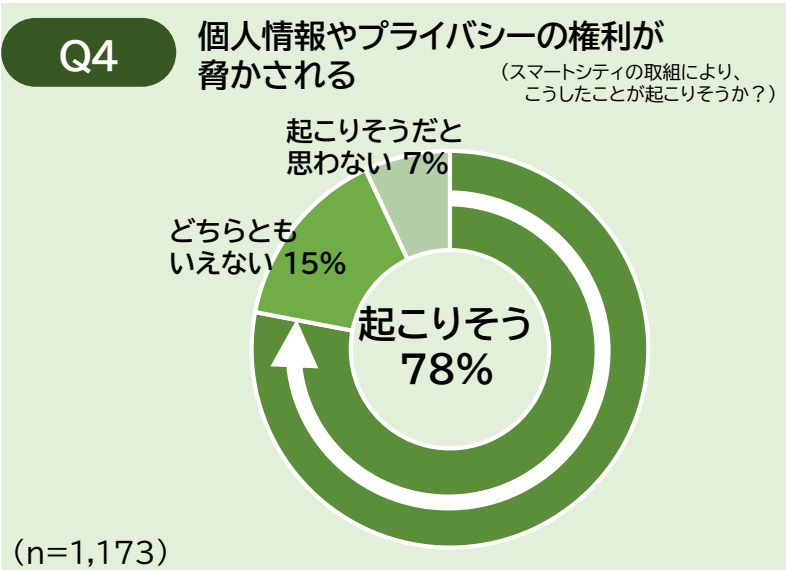
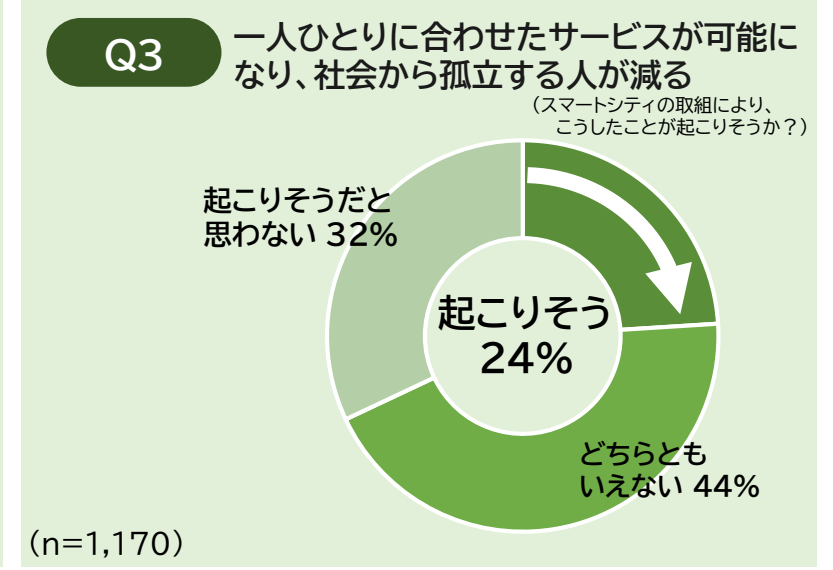
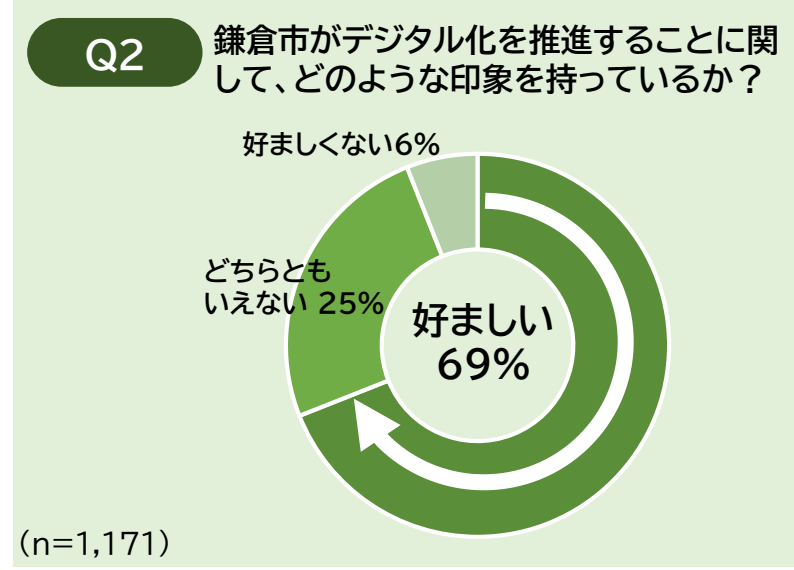
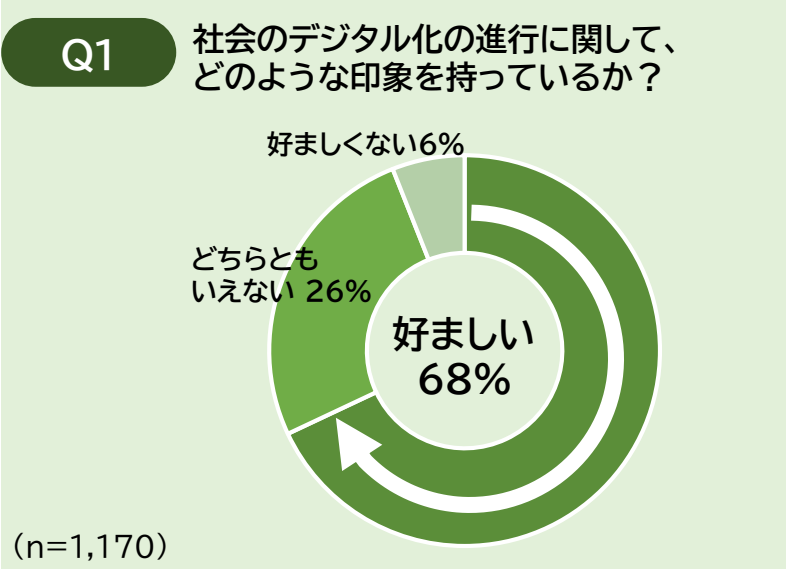
目次

- I. はじめに
- II. 調査について
 - ・調査の目的
 - ・調査の概要
 - ・詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - ・主な成果
 - ・学術的な総評
 - ・鎌倉市としての成果
 - ・ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細(別紙1)
- V. 自由回答一覧(別紙2)

共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査

Aグループの回答を抜粋

※各回答項目の割合(%)は、端数処理の関係上、合計が100%にならない場合があります。



スマートシティ市民対話(令和2年度開催)

開催概要

日時:令和2年(2020年)11月18日(水)18:00~20:00
令和2年(2020年)11月21日(土)10:00~12:00
令和2年(2020年)11月21日(土)14:00~16:00
※3回とも同一内容

方法:オンライン(Zoom)

参加者:市内在住・在学・在勤の約90名(延べ)

テーマ・内容

1 スマートシティについての理解を深める

- ・ イントロダクション(市民対話の目的・進め方の共有)
- ・ 松尾市長からの挨拶(動画メッセージ)
- ・ 市プレゼンテーション:スマートシティに取り組む背景やスマートシティ構想策定に向けた基本方針について、参加者へのアンケートなども実施しながら共有

2 スマートシティで解決したい日常の困りごとを抽出する

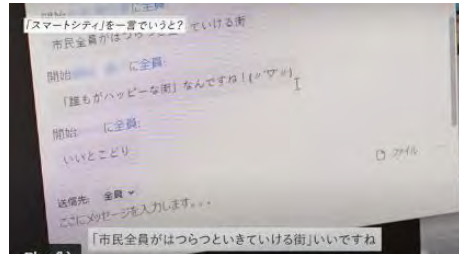
- ・ グループワーク①「自分や周りの人のために解決したい日常の困りごとは？」

3 理想の暮らしを実現できるスマートシティを想像する

- ・ グループワーク②「もしたった一つスマートシティで理想や夢の暮らしを実現できるとしたら、何を？」



市長からのメッセージ



チャット機能を活用した
コミュニケーション

意見の概要

市民対話の中では、「人とのつながり」「多様な生き方」「みんなで解決する」と言ったキーワードに焦点が当てられており、人を中心としたまちづくりを促進できるようになることが、スマートシティへの期待と捉えられた

対話前のスマートシティの印象

- 住みやすい・生きやすいまち
- 未来への持続的・継続的發展の手段

対話後のスマートシティの印象

- 人と人とのつながり
- 人らしく生きられる理想の実現
- 多様性を認め合うまち

参加者への問いとアウトプットの概要

スマートシティで実現したい暮らし

- 近所や世代間のつながりを促進する
- 多様な生き方を尊重する
- 地元で働ける場をつくる
- 地域課題が見える化してみんなで解決する

解決したい日常の困りごと

- 近所や世代間のつながり・助け合いが少ない
- 高齢者等のITリテラシー格差が拡大する
- 交通渋滞が多い
- 移動手段が減って買い物等に困る
- メジャーでない地元の情報を知りたい・伝えたい

スマートシティで避けたい状態

- 人と会わなくても何でもオンラインでできる
- 考えなくても良くなる
- 人が選別・管理・監視される
- 手続きがかえって複雑になる
- ITありきで使えない高齢者等が暮らせない

スマートシティ市民対話(令和3年度第1回開催)

開催概要

日時:令和3年(2021年)8月22日(日)14:00~16:30
方法:オンライン(Zoom)
参加者:市内在住、在学、在勤の29名(応募者 69名から抽選)
※学生6名がファシリテーターとして参加、手話通訳者(2名)を配置

テーマ・内容

1 スマートシティについての理解を深める

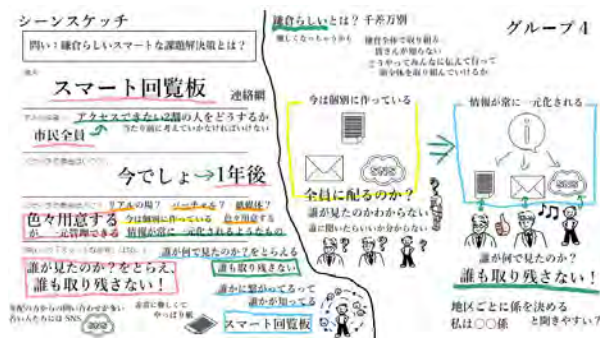
- ・ イントロダクション・自己紹介
- ・ 市プレゼンテーション:鎌倉市が取り組むスマートシティについて
- ・ グループワーク①「プレゼンを聞いてワクワクしたことや気になったこと、質問したいことは？」

2 今とは違うスマートな暮らしを描写する

- ・ グループワーク②「自分や周りの人のために解決したい日常の課題は？」
- ・ グループワーク③「鎌倉らしいスマートな課題解決策は？」
- 題名、スケッチ、主人公はだれ?(Who)、スケッチの舞台はいつ?(When)、スケッチの舞台はどこ?(Where)現在との「スマートな差異」はなに?(What)



第1回では、高校生・大学生がファシリテーターを務めた



アイデアや意見をリアルタイムで可視化するツールを活用

意見の概要

プレゼンテーション(鎌倉市が取り組むスマートシティについて)を受けて、ワクワクしたことや気になったこと、質問したいことは？

- 市民主体はすごくよい、もっと参加者を巻き込んでいくには？
- 若い子たちがもっと楽しみたい、住みたいなっていうふうになったらいい
- 世代間交流、人と人とのつながり、世代を超えて！子育てしやすい街へ！
- 「スマートシティ=誰のために、何のために、何を、どうする」が小学生にも高齢者にも分かり易い言葉で説明できる必要がある
- 「スマートシティ」で「なにをやるのか」早めに、具体的に絞っていくことが必要

自分や周りの人のために解決したい日常の課題は？

- 災害が多い、自然災害
- 医療体制は大事、医療従事者自体が少ない
- 各団体の高齢化による担い手不足
- 道が狭い、危険、観光客が増えすぎて生活しにくい、交通渋滞
- 遊び場が少ない、市街地にない、公園が少ない、鎌倉に魅力的な場所を増やしたい
- 市民17万人全員が究極参加できたらいい

鎌倉らしいスマートな課題解決策は？

- 鎌倉ポータルサイト、市民による市民のためのコミュニティ、知りたい情報が得られる仕組み、コミュニティの補完、SNSを活用
- 地域の支え合いを支えるテクノロジー
- バーチャルママ・パパ友、価値観と課題の共有
- スマート回覧板、情報が常に一元化される
- この地域に住みたい！世代間交流を生み出すご近所シェアガーデン
- 手段ではなくコンテンツをどうするか、テクノロジーのハードルを下げる

スマートシティ市民対話(令和3年度第2回開催)

開催概要

日時:令和3年(2021年)10月10日(日)14:00~16:30
方法:オンライン(Zoom) 手話通訳者(2名)を配置
参加者:市内在住、在学、在勤の29名 ※第1回と同じメンバー

テーマ・内容

1 スマートシティ構想(素案)を一緒につくる

- 市プレゼンテーション
- 「市民対話の目的」
- 「基本理念・基本原則を考える」
- 「令和4年度プロジェクトの対象領域(リーディングプロジェクト)を考える」

2 スマートシティの推進体制を一緒に考える

- グループワーク
- 「具体的なプロジェクトを進めていくためには、どのようなステークホルダーや役割が必要？」
- 「具体的なプロジェクトの共創に市民が参加するためには、どんなこと(仕組み・仕掛け・場)が必要だろうか？」
- 「市民参加型のスマートシティに、自分はどう関わりたいか？」

第2回 鎌倉版「スマートシティ」市民対話
2021年10月10日(日)14:00~16:30



鎌倉市が目指すスマートシティ



約30名の市民の方々が参加

意見の概要

具体的なプロジェクトを進めていくためには、どのようなステークホルダーや役割が必要？

- 市民
 - 行政の政策(案)に対し、市民は賛同するか否かをフィードバックする
 - デジタルに詳しい市民の技術者が教える役割を担えるとよい
 - 市民団体などリーダーシップのある人が率先できるとよい
 - 自分でも解決できると思えるような、市民の抱える小さい課題も見える化できるとよい
- 行政
 - 行政から市民に提案する。
 - さまざまな情報を市民に広く届ける役割(例:防災情報)
- 企業
 - 情報提供されたものが正しいのかを精査してくれる役割
- 大学
 - 情報提供されたものが正しいのかを精査してくれる役割
 - 学校などで市民参加できるようになると若者も市民参加しやすくなる
 - 海外の事例など、外部からの視点も必要であり、研究者からの情報提供してもらえるとよい
- NPO
 - 市民の困りごとを知るソーシャルワーカーを起点にするとよい

具体的なプロジェクトの共創に市民が参加するためには、どんなことが必要だろうか？

- SNSやZoomといったオンラインとリアルのハイブリッドな場
- 楽しく情報をインプットできる/される仕組み
- 地域ごとの困りごとをテーマに分類して見える化
- 個人のスキル等の情報可視化と必要な人同士をマッチングする場
- 情報格差をなくすために複数の情報ツールの組み合わせ
- 試行錯誤を素早く繰り返すプロセス

市民参加型のスマートシティに、自分はどう関わりたいか？

- 市民参加型のデザインやアイデアソンなど市民対話に参加したい
- 共創を促進するスマートシティサポーターになりたい
- スマートシティ推進の政策に対し提案したい
- 鎌倉市の案に対しフィードバックしていきたい



グラフィックレコーディングで議論を可視化

スマートシティアンケート

◇調査概要◇

- | | |
|-------------|---|
| 1 調査対象 | 市内在住・在勤・在学の方 |
| 2 周知方法 | 広報かまくら 市公式SNS(LINE、Twitter、Facebook) その他(関係団体等への周知依頼) |
| 3 調査時期／回収結果 | ① 令和3年(2021年)9月1日～9月15日 ② 令和3年(2021年)10月29日～11月15日 |
| ／ 53件 | |
| ／ 26件 | |
| 4 調査方法 | e-kanagawaアンケート(インターネット) |
| 5 調査主体 | 鎌倉市 |

The screenshot shows a web-based survey form titled "e-KANAGAWA 鎌倉市 電子申請システム". The form is in Japanese and contains the following sections:

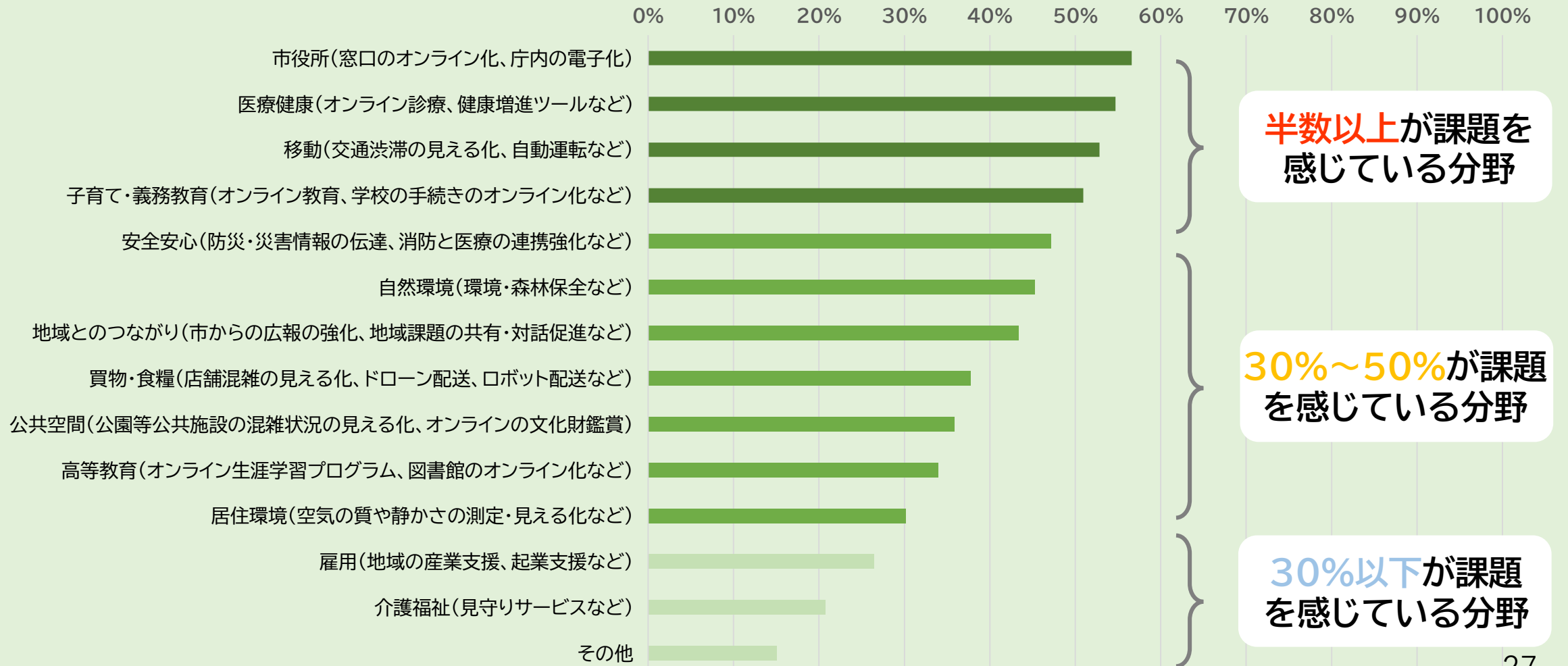
- 様式管理** (Form Management) with links for "プレビュー" (Preview), "鎌倉版「スマートシティ」意見募集" (Kanagawa Smart City Opinion Collection), and "鎌倉版「スマートシティ」意見募集".
- 鎌倉市がスマートシティに取り組んでいることを知っていましたか? 必須** (Did you know Kanagawa City is participating in Smart City? Required). A dropdown menu with "選択してください" (Please select).
- 鎌倉市がスマートシティ ※を推進することに関してどのような印象をお持ちですか? 必須** (What impression do you have regarding Kanagawa City's promotion of Smart City? Required). A dropdown menu with "選択してください" (Please select). Below this is a note: "※デジタル技術とデータを適切に活用し、先端サービスを提供し、市民にとっての様々な課題を解決しつつ、地域全体や未来の大きな課題を解決するという目的" (Objective: To use digital technology and data appropriately to provide advanced services, solve various issues for citizens, and address regional and future challenges).
- その理由を入力してください。** (Please enter the reason). A text input field with a label "選択した理由を記載してください" (Please describe the reason you selected).
- 鎌倉市のスマートシティで解決していきたい地域の課題や日々課題を感じている分野を選択してください** (Please select the issues or areas you feel are daily challenges in the Smart City of Kanagawa City you want to solve). A note: "複数選択可。該当が複数ある場合、自由記述欄に記載してください。" (Multiple selections allowed. If multiple apply, please describe in the free text field). Below are several checkboxes with corresponding text input fields:
 - 経済産業 (製造・商品開発など)
 - 医療健康 (オンライン診療、健康増進プログラムなど)
 - 行政業務 (窓口サービスなど)
 - 教育・文化 (生涯学習の推進、ドローン活用、ロボット活用など)
 - 防災・環境 (防災避難の推進、防災・防災訓練など)
 - 観光 (観光客の増進、観光振興など)
 - 福祉 (高齢者の増進、高齢者支援など)
 - その他 (オンライン学習プログラム、防災訓練プログラムなど)

スマートシティアンケート

※各回答項目の割合(%)は、端数処理の関係上、合計が100%にならない場合があります。

Q7

鎌倉市のスマートシティで解決していきたい地域の課題や日々課題を感じている分野(n=53) ※複数選択可



共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査

◇調査概要◇

- 1 調査地域 鎌倉市全域
- 2 調査対象 満18歳以上の市民(令和3年(2021年)3月1日時点)
- 3 調査対象数 4,000人(各 2,000人のAグループ/Bグループ)
- 4 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 5 調査時期 令和3年(2021年)4月～5月
- 6 調査方法 調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答
 - ・満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答
(ただし、郵送回答希望者には別途調査票を送付)
 - ・満 65 歳以上は郵送配布・郵送回答

7 回答率向上施策

A グループのみ、回答率を向上させる複数の方法を用いました

- ① 事前協力依頼 調査対象者に、回答依頼の6日前に、調査対象者になった旨を通知し、協力を依頼。
- ② 督促 調査締切後、未回答の対象者に改めて協力を要請するとともに、締切を延長。
- ③ 謝礼 締切までに回答を頂いた全回答者に、クオカード300円分を贈呈。さらに、早期回答者(発送後9日以内)へは200円分を追加し、全体の回答率目標(70%)を達成した場合には、全回答者にさらに200円分を追加。

8 調査主体 鎌倉市・株式会社ドリームインキュベータ

※世論・住民意識調査ソリューションの共同研究に関する協定書に基づく共同研究

「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」結果確報

令和3年(2021年)12月3日
鎌倉市
株式会社ドリームインキュベータ



目次

- I. はじめに
- II. 調査について
 - ・調査の目的
 - ・調査の概要
 - ・詳細分析の概要
- III. 分析結果と成果
 - ・主な成果
 - ・学術的な総評
 - ・鎌倉市としての成果
 - ・ドリームインキュベータとしての成果
- IV. クロス集計結果詳細(別紙1)
- V. 自由回答一覧(別紙2)

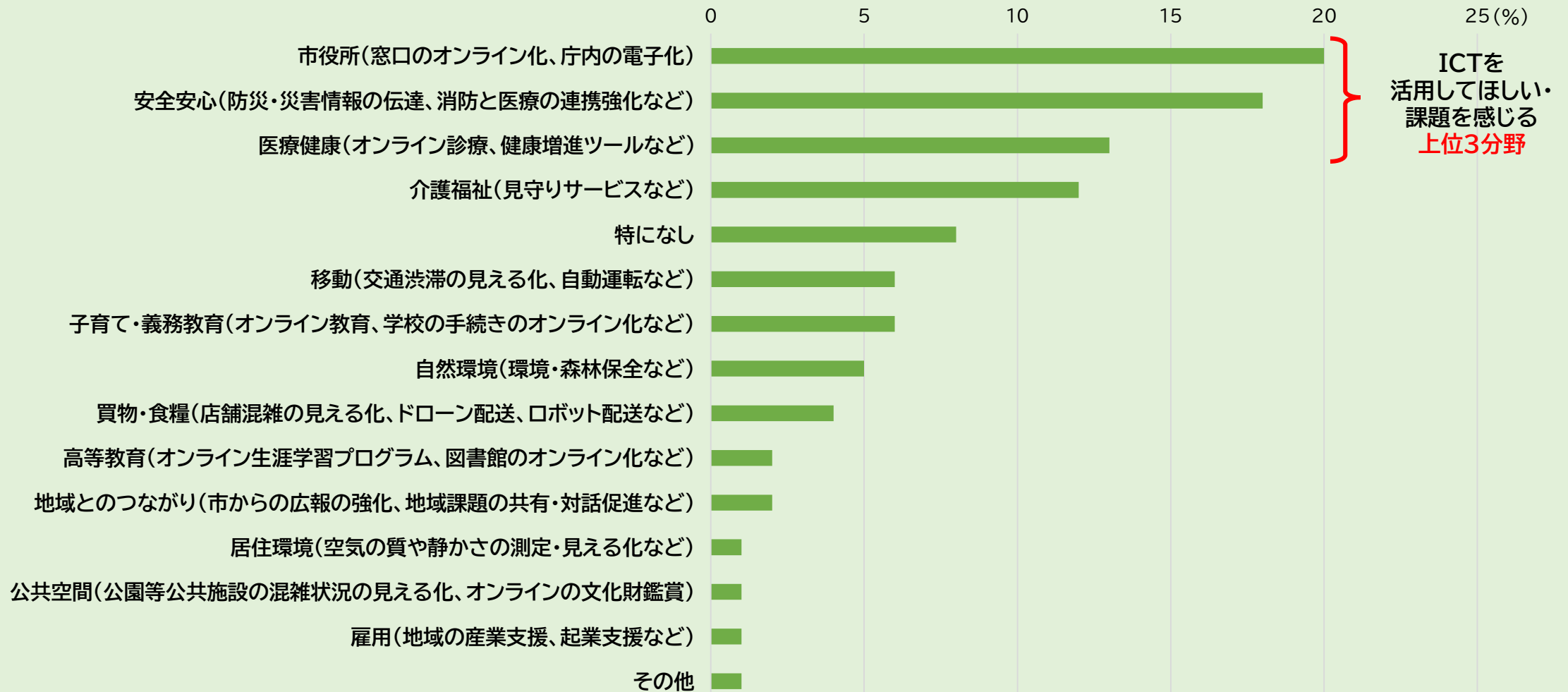
4 共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査

Aグループの回答を抜粋

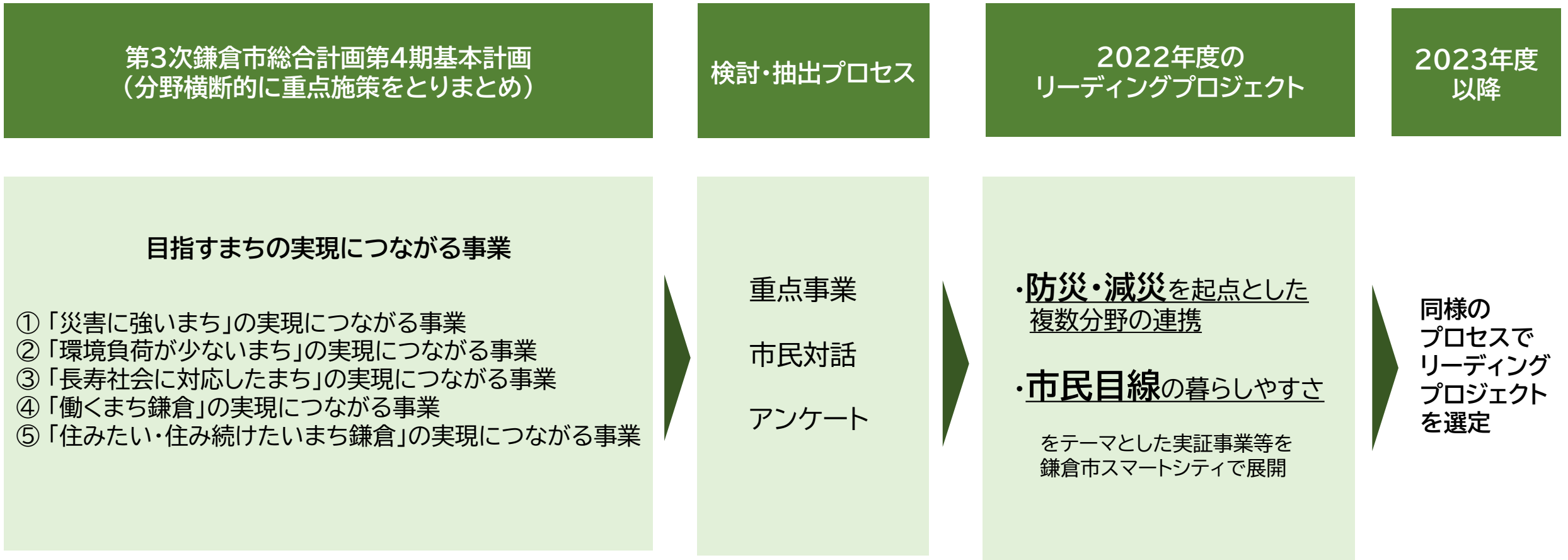
※各回答項目の割合(%)は、端数処理の関係上、合計が100%にならない場合があります。

Q7

スマートシティを推進するに当たって、ICTを活用してほしい分野・日々課題を感じている分野 (n=1,102) ※1つ選択



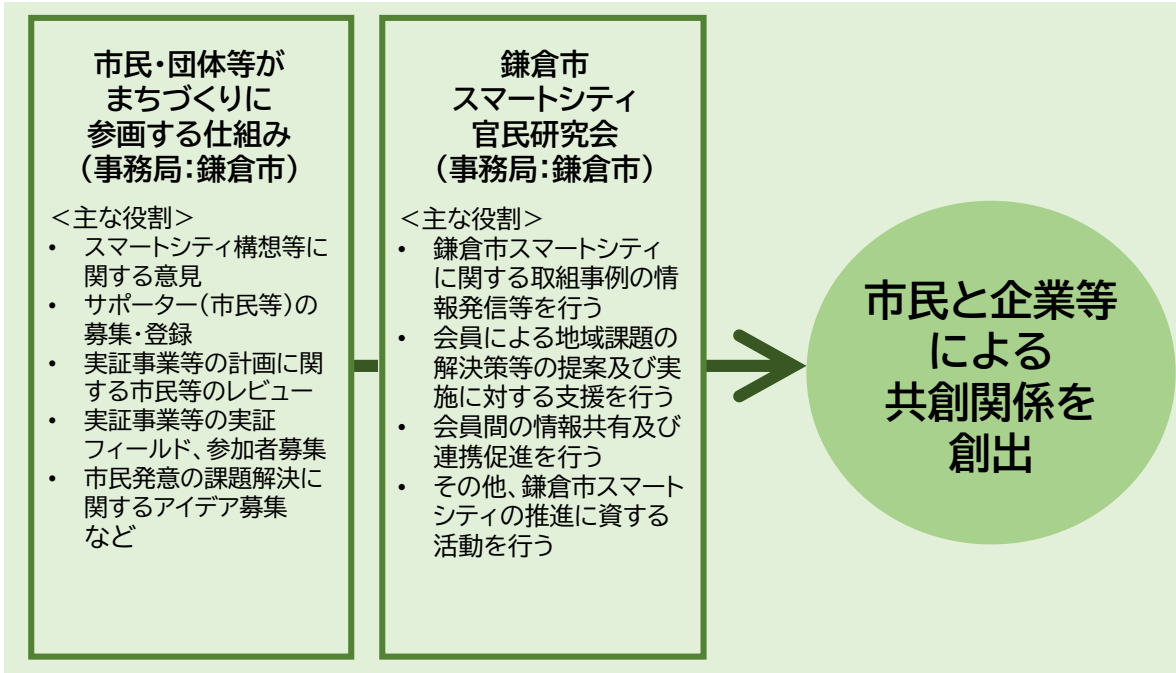
5 リーディングプロジェクト:2022年度に取り組むプロジェクトの対象領域



4 推進体制

推進体制

- 鎌倉市スマートシティでは、市民のQOL・まちの魅力向上に向けて、まちづくりを担う市民・団体等と、先端技術・サービスの開発・提供を担う鎌倉市スマートシティ官民研究会との連携を促し、共創関係の創出により課題解決に取り組みます。



【共創を生み出す基盤構築】

- I 多くの市民が参加できる合意形成PFの構築
- II 産官学民によるオープンイノベーション*の環境の整備
- III データ連携基盤*の整備・オープンデータの拡充
- IV 戦略的広報、人材育成、調査・研究の推進

共創を生み出す基盤

I 多くの市民が参加できる合意形成PFの構築

- ①オンライン合意形成PFの構築
 - ・市民起点の実現と新たなコミュニティの形成
 - ・オンラインとオフラインを組合せ、誰もがオープンに参加可能な仕組みの構築
- ②データ利活用等と官民共創の取組との連動
 - ・プライバシー保護と透明性確保、リスクや倫理的課題の明確化の徹底

II 産官学民によるオープンイノベーションの環境の整備

- ①庁内推進体制の強化
 - ・外部人材の活用
 - ・縦割りの打破
- ②大学等との連携
 - ・共同研究の促進
- ③官民共創による推進体制の強化
 - ・鎌倉市スマートシティ官民研究会を活用した連携促進
 - ・市民と企業等の共創関係を創出する実証事業等の推進
 - ・新産業創出、神奈川県ベンチャー支援との連携強化

III データ連携基盤の整備・オープンデータの拡充

- ①官民によるデータ利活用の促進
 - ・ユースケース(事例)の創出
- ②行政データの整備
 - ・オープンデータの拡充 (紙データ等のデジタル化やデータのクレンジング*、一元化・標準化の実施)
- ③データ流通PFの構築(取引条件・仲介機能)
 - ・提供者の課題と利用者のニーズの把握
 - ・データ流通・利活用のケーススタディ* 事業の実施やルールの整備
 - ・システム基盤の構築

IV 戦略的広報、人材育成、調査・研究の推進

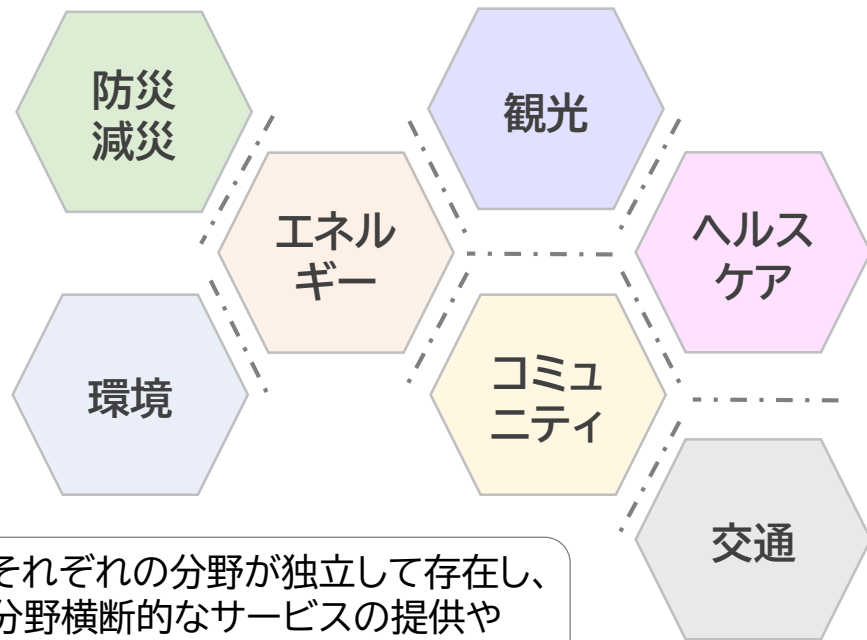
- ・ターゲットに合わせたPFの構築(市のホームページ、note*、SNS*等の活用)
- ・継続的な情報発信(優れた取組の発信、イベント、インタビュー等)
- ・データ利活用に対する理解促進(市民データサイエンティスト*の養成、アイデアソンの開催等)
- ・シニア向けデジタル講座やFab Citizen*の育成等の充実
- ・住みやすさと幸福度の数値化・指標化(LWCI*)の調査・研究(P13参照)

リーディングプロジェクト:防災・減災を起点とした複数分野の連携

これまでの取組 分野ごとの取組

- 各分野での課題解決に向けた取組が個別最適化
- 情報やデータも組織や分野ごとに独立してしまっており、複数分野が連携した新しいサービスの構築や課題に対する柔軟な解決策を打ち出しにくい

これまでの取組イメージ



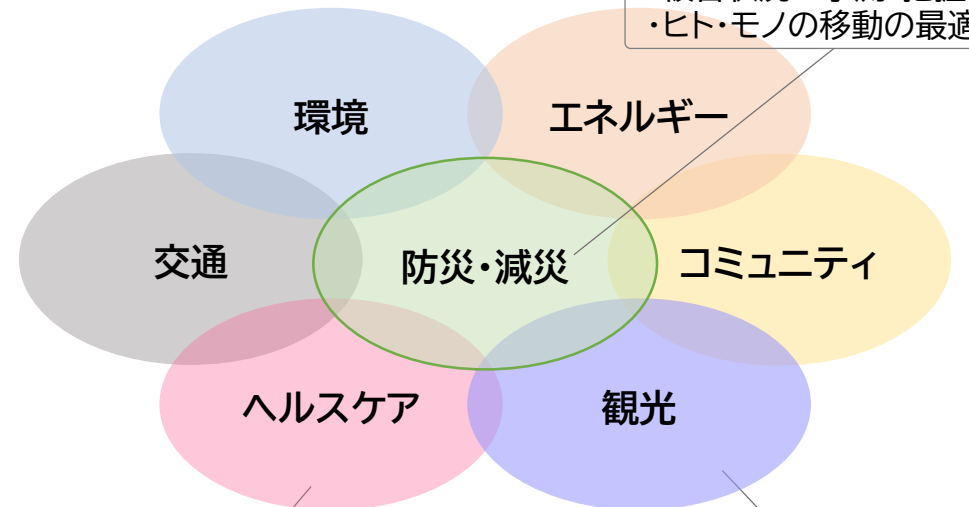
それぞれの分野が独立して存在し、分野横断的なサービスの提供やリアルタイムの情報共有が難しい

これからの取組 分野間連携*による取組

- 防災・減災を起点として、ヘルスケアや観光などの複数分野が連携した新しいサービスを構築
- 複数の行政分野にまたがる課題や、これまでの対策では対応困難な課題に対して解決可能な高度なサービスの提供を目指す

分野間連携による取組イメージ

※四角内は連携例を記載



【課題】
・被害状況の予測・把握
・ヒト・モノの移動の最適化

(例)ハザードマップと要援護者の位置情報等から円滑な救助活動の実現

(例)観光客の人流データ*から適切な避難誘導や災害時対応の実現

5 スマートシティ連携事業

| | | | |
|----------------|---------|-------------|--------|
| 1 構想の概要 | 2 環境の変化 | 3 理念・原則 | 4 推進体制 |
| 5 リーディングプロジェクト | 6 連携事業 | 7 住みやすさと幸福度 | 用語解説 |

スマートシティ構想の取組と一体となって進める各種プロジェクト

スーパーシティ*への挑戦

- ✓ 鎌倉に関わる全ての人々のWell-Beingを高め、持続可能な共生社会の実現を目指す
- ✓ 市民と観光客の共生のため、ロードプライシング*実現に向けた規制改革等を提案。交通・人流マネジメント、防災・ヘルスケアなどの複数分野のサービスを連携させ、共生みらい都市の実現を目指す



公的不動産の利活用

- ✓ 市役所(現在地)や梶原四丁目用地(野村総合研究所跡地)、深沢地域整備事業用地(行政施設用地)などの主要な5つの公的不動産の利活用推進についての方針を策定
- ✓ 市役所(現在地)では、市民サービスの提供・公共施設再編と民間機能の導入による賑わいや憩いを創出するほか、公的不動産の利活用により、まちづくりにインパクト*を与え、新しい価値の創造を目指す

デジタルガバメント*の推進

- ✓ デジタルガバメントの推進による公共サービス(窓口のオンライン化や電子申請等)の利便性向上、社会インフラ*の適正な維持管理を目指す



新たな観光の推進



- ✓ 2022年放送の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を機に、鎌倉の知られざる歴史文化を広く発信するとともに、人流の可視化や誘導など、分散型観光への新たな取組を推進
- ✓ 大河ドラマを活用した賑わい創出に官民一体となって取り組み、コロナ禍で疲弊した鎌倉のまちの活性化を図る

共創による取組(官民連携など)

- ✓ 企業や大学等が持つ技術やノウハウをベースに、対話を重ねる中で、新しい価値を共に創り出していき、適切な市民サービスの提供や、個性豊かで活力のある持続可能な都市経営を推進



共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT*)



- ✓ 「ゼロ・ウェイストかまくら」実現を目指し、慶應義塾大学と連携してデジタルPF・IoT・3D製造技術*を活用したプラスチックの減量や資源化を推進
- ✓ SIB*等の調査・研究



「プラスチック地捨地消」デジタルPFのイメージ

深沢地域のまちづくり

- ✓ 鎌倉、大船に続く第3の都市拠点形成を目指すとともに、まちづくりのテーマ「ウェルネス*」を実現するため、居心地がよく、歩きたくなるウォーカブル*なまちづくりを目指す

- ・ ことごとからだの健康を育むまち
- ・ インベーションを生み出すまち
- ・ あらゆる人と環境にやさしいまち



GIGAスクール

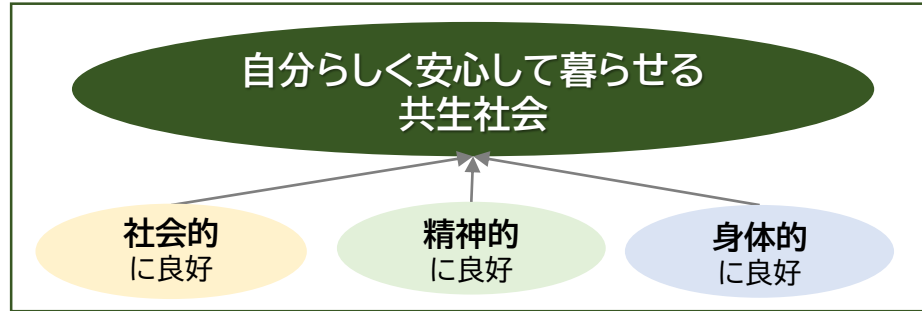


- ✓ 2020年度は「GIGAスクール構想*」により、小・中学校の各教室にインターネット環境を整備し、全ての児童・生徒へ端末を配布
- ✓ 今後は2021年度に導入した習熟度や苦手なポイントを分析し、適切な問題を提案するAIドリル*の授業での活用や、デジタル教科書を電子黒板*に映すなど分かりやすい授業づくりを推進

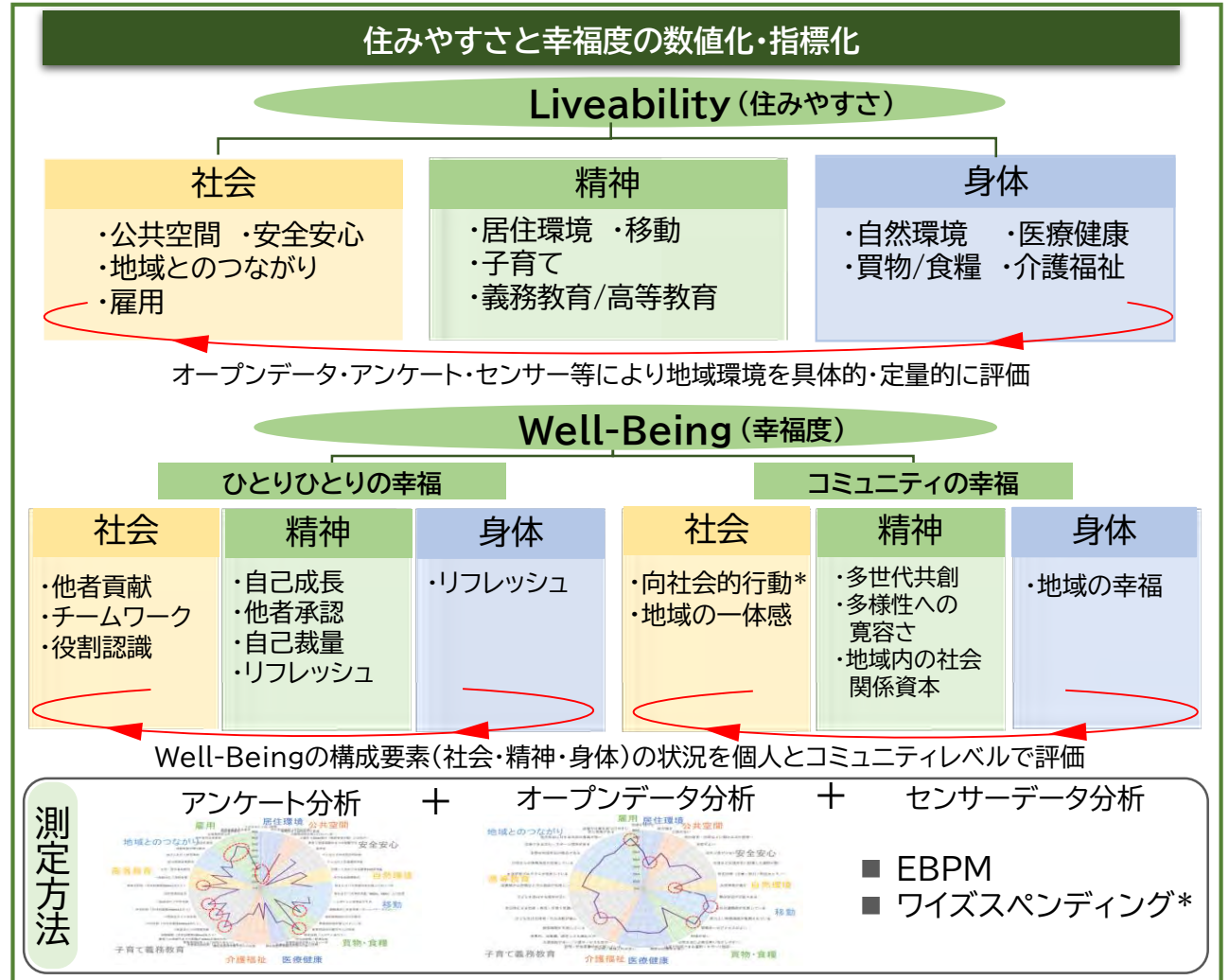


住みやすさと幸福度の数値化・指標化

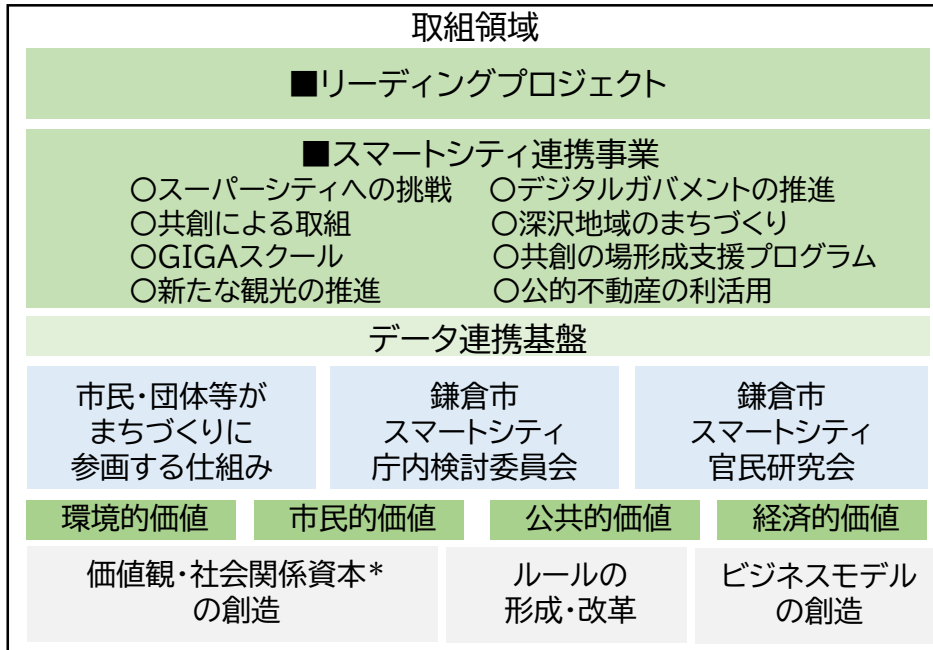
鎌倉の文化や歴史を踏まえた幸福のあり方を可視化し、定量的な評価を基にスマートシティのPDCAサイクルを実施



可視化



市民のWell-BeingとLiveabilityの向上



フィードバック
(Well-Being向上のために解決すべき課題の提示)